

1 科学技術外交の戦略的方向性

(1) 科学技術外交の意義と目的

- 近年の国際情勢（パワーバランスの変化、グローバル化に伴う脅威の多様化や不透明性の増大により、国際協調の推進が必要）
 - 日本の国家安全保障戦略（地球規模課題を念頭に「技術力の強化」の重要性及び外交への積極的活用）
 - 科学技術外交に関するこれまでの検討と取組（内閣府での科学技術外交に関する検討を通じ、これまでにG8科技大臣会合を開催、ODAと連携し途上国との共同研究事業(SATREPS)を立ち上げ、関係府省・機関・在外公館との連携ネットワークを構築）
- 今後の取組：科学技術外交を「日本外交の柱の一つに」

(2) 科学技術外交の戦略的アプローチ

- 「科学技術のための外交」と「外交のための科学技術」：「外交のための科学技術」実施のため、戦略的取組と実効的な基盤の強化が必要。
- 外交戦略の主要目標に沿った科学技術外交（「平和のための科学技術外交」と「繁栄のための科学技術外交」）
- 国境を越える科学技術の特性の活用（トラック2による信頼構築等、米国での実践）
- 外交政策判断のベースとしての科学的知見の重要性
（特に、外交政策上重要度を増している宇宙、北極、深海、サイバー等は、科学技術のフロンティアであり、専門的知見を活用可能。）

積極的平和外交の重要な柱として活用

- 地域及び国際社会の安定につながるグローバル課題に、我が国の科学技術で貢献。
- 最先端の原子力技術を活用しつつ、世界で唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向け、いっそう積極的に取り組む。

経済外交強化への活用

- 新興国との協力により、イノベーション創出や研究成果の産業化を進め、双方の経済成長につなげる（日本企業の海外展開も支援）。
- 二国間科学技術協定の戦略的活用により二国間関係を強化。
- 在外公館の科学技術イノベーション関係のネットワーク・情報を活用。

地球儀俯瞰外交

- 「地球儀俯瞰外交」の視点で、同盟国やパートナー諸国等と戦略的にプライオリティをつけつつ連携し、科学技術外交を実効的に推進。
- アジアの隣国や、台頭する新興国の重要性。
- 先進国、新興国、途上国のそれぞれに応じた協力を進め、厚みのある科学技術外交を展開することが重要。

パブリック・ディプロマシー

- 戦後70年間にわたる平和国家としての歩みとあわせて、科学技術先進国としてのブランド・イメージを世界に定着させ、「ソフト・パワー」として科学技術外交をこれまで以上に活用する。

2 科学技術外交に期待される方向性と具体策 (1) グローバル課題への対応と外交機会の活用

方向性

●「科学技術イノベーションを通じてグローバルな諸課題の解決を主導し、望ましい国際環境の実現をはかる」との外交姿勢を確立する(科学技術外交を日本外交の新機軸として明確に位置づけ)。

ー科学技術面での強みを積極的、創造的に活用し、力強い外交を展開。

(グローバル課題をめぐるアジェンダ設定、解決策の提示、国際ルール形成を主導。)

ー科学技術外交を通じて、オープンでリベラル、平和で豊かな世界を築いていく姿勢を明確にする。

(オープンサイエンスの潮流や社会のサイバー化といった趨勢の中、学問・表現の自由、人間の尊厳の尊重といった価値観に立脚した科学技術イノベーションの推進を主導。)

具体策

(国内連携)

国際社会で将来的に重要になり、我が国が指導力を発揮しやすい「次なる課題」をいち早く特定する仕組みを構築。

(科学技術顧問を中心に、科学技術・学術政策研究所(文科省)、JSTやNEDOのシンクタンク機能等とも連携)

(国際的議論を主導)

特定された課題を専門的な視点で検討し、科学的根拠を伴う、時宜を得た外交アジェンダとして国際社会に提示し、サミット、OECD等の国際会議等での議論を主導する。

期待される効果：国際社会における我が国の評価向上，影響力の増進

2016年サミット・TICAD, 2020年オリンピック・パラリンピックといった外交機会を捉えた貢献は効果大